

# リサイクルの最新動向 プレスセミナー報告

ごみ・環境ビジョン 21  
運営委員 多田 眞



資源回収・リサイクルのシステムプロバイダーとして、世界 80 カ国で事業展開をしているトムラソーティング(株) (本社ノルウェー) のプレスセミナーが、2月20日にノルウェー大使館内で開催されました。その概要を報告します。

## リサイクルでサーキュラーエコノミーを目指す

トムラソーティング(株)代表取締役  
佐々木 恵 さん



### ■ サーキュラーエコノミーの提案

トムラは自動選別機械 (タイトル写真) のメーカーですが、それだけではなく、経済活動において環境にやさしいサーキュラーエコノミー (循環型経済) の実現を提案させていただいています。我々のミッションは国連環境計画に沿った上で、いろいろな経済活動をされている皆さまをサポートしてゆくことです。

今世界の現状は都市部への人口集中、人口増加が進み、2050年には2010年よりも、固形廃棄物 (自治体等が廃棄物として収集するもの) が70%増加すると見込まれています。このまま何のアクションも起こさずにいると、2050年には海の魚よりも海に浮かんでいるプラスチックの数のほうが多いというショッキングなデータもあります。さらに資源には限りがあるので、きちんとリユース、リサイクルして環境に戻して行くことが重要です。

これからのサーキュラーエコノミーというのはリサイクルによって二次原料に加工して、製造者に戻して製品が作られる。そして流通され消費されて、そこでリユースされたり、リペアされたり、リサイクルされたりすることによって資源へと戻されて流通の中へ戻ってゆく。こういうものを我々は目指しています。

当社では多くの一流企業にアドバイスしています。リサイクルのできる包装材などをアドバイスし、低コストなりサイクルを行うことで、バージンを使うより経済的にパッケージを作れます。

### ■ 自動選別機の活用

センサー選別機の活用によって廃棄物の中から有価物を選別して管理され、オンライン化されたり情報の共有をす

ることによって、自分たちの商品がどのエリアで多く使われているか、マーケットシェアはどうなっているか等の情報も収集できるようになります。

センサー選別機は、ペットボトルや、廃棄された自動車、家電等に使われます。さらに建築廃材などの廃棄場でメタルの分別にも使われており、それぞれの分野での安定した選別によってコストの削減に貢献します。

それだけではなく、埋め立てや焼却に回しているものから固形燃料になるものを回収することもしています。さらにこれからの可能性としては、生ごみの中に紛れ込みやすいガラスや石などの選別があります。可燃ごみを焼却した後の灰の処理も選別機でやっていきたいところです。

もちろん、手選別でやっているところの機械化も我々のミッションになると思います。

今後、ご紹介いただきたいパートナー様、おつき合させていただきたいパートナー様と共に、サーキュラーエコノミーを成功させることが我々の責任と感じております。

「一緒に情報を共有して共に育っていきましょう！」と、トムラは思っております。



## プラスチック資源循環戦略とリサイクルの動向

プラスチック容器包装リサイクル推進協議会 専務理事  
久保直紀 さん

### ■ プラスチック資源循環戦略の概要

各項目にマイルストーン (目標の進捗値) を設定。

\*リデュース: ① 2030年度までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制

\*リユース・リサイクル: ② 2025年までにリユース・リサイクル可能なデザインに ③ 2030年までに容器包装の60%をリサイクル・リユース ④ 2035年までに使用済プラスチックを100%有効利用

\*再生材料・バイオマスプラスチック: ⑤ 2030年までに再生材料を倍増 ⑥ 2030年までにバイオマスプラスチックを約200万t導入

### ■ 産業界の対応

リデュース、リユース、リサイクルの面からさまざまな取り組み。3R推進団体連絡会では8素材についてリデュース、リサイクル目標を提示。

### ■ 課題

素材特性に合った手法の適切な組み合わせ。収集・選別の効率化 (自治体が行うので予算を取りにくい)。

リサイクル材の品質向上・コスト削減。